

# ジェンダー暴力と闘う 16 日間キャンペーン

2010 年 11 月 25 日 - 12 月 10 日



2010 年のテーマ「暴力の構造：軍事主義と女性に対する暴力の共通点を明らかにする」

「ジェンダー暴力と闘う 16 日間キャンペーン」は今年 20 周年を迎えます。節目を迎える今年、「女性のグローバル・リーダーシップ・センター」(CWGL)では、このキャンペーンを変革のきっかけとするための新たな方法を模索しています。地域や国、グローバルなレベルで女性が直面する暴力について知らせるため、キャンペーンに毎年新たな仲間が加わっています。国際会議におけるジェンダーに起因する暴力への関心の高まりは、世界中の女性の人権活動家の力強い行動の証です。しかし、関心の高まりにも関わらず、驚くべき数の女性たちが依然として暴力に遭い、新しいタイプの暴力も増えています。私たち女性の人権活動家は、ジェンダーに起因する暴力が存在し続けることを容認する構造を、より近くで監視する責任があります。世界中の活動家、団体、専門家との協議の結果、暴力の連鎖を生む構造の原因のひとつに軍事主義があることがわかりました。

軍事主義にはいくつかの定義がありますが、私たちは、恐怖の文化をつくりだし、暴力を用いることを支え、争いに軍事的介入をし、経済的・政治的利益を得ようとするものだとして定義しています。それはまた、女性や社会全体の真の安全と安心のために重大な影響を及ぼす集団心理でもあります。軍事主義は、世界を見る上で不可欠の視点です。隣人、家族、社会生活、世界の人々に対する見方にも影響を与えます。軍事主義を支持することは、誰にでも敵がいて、問題解決には暴力が効果的であることを前提としています。これまで試みられてはいませんが、軍事主義から抜け出すには、与えられた男らしさを捨て、グローバルなヒエラルキーから逃れ、女性に対する戦時暴力の加害者に刑罰を与えることが必要です。軍事主義以前の状態に戻ること、本来あるべき社会について多様なアイデアが生まれ、より多くの女性たちに社会的な場での生活をもたらす、武器の販売合戦によってではなく、信頼と協働に基づく本物の関係にたった世界を作り出すことができるでしょう。

私たちの社会のすべての人に軍事主義的思想とは何かを伝えなくてはなりません。軍事主義は物質的、制度的、かつ文化的、心理的な影響を測ることが難しいものです。戦争や内戦、政治的・社会的正義を目指す運動に対する弾圧などすべてが、軍事主義的文化の表れです。強かんは恐怖を煽り、女性たちや彼女たちが暮らす地域の人々に屈辱を与える戦術として用いられてきました。性暴力は、女性や少女が、表面上は終結したかに見える戦前、戦時、戦後と連続して受ける暴力の一つでしかありません。軍事主義は、交戦地帯に限られたものではなく、また公的空間にも限定されません。軍事主義の影響を受けた男性や女性の家族は、公衆の面前から離れたところで起きる「戦争犯罪」やドメスティックバイオレンスを経験し、軍で働く女性たちは同僚兵士による性的暴行の被害者になりやすいのです。直接紛争を経験していないところでも軍事主義の影響から逃れられません。開発への努力を支援せずに、部隊を送り、武器を製造・販売し、外国政府の軍隊に投資しています。これらの政府は優先順位づけを誤り、福祉や教育、保健、雇用、開発など、真に安全を守り、本当の安心を女性たちにもたらすために使う代わりに、自分たちの予算の膨大な割合を軍備や武器のために使っているのです。こうした背景から、2010 年の 16 日間キャンペーンは「暴力の構造：軍事主義と女性に対する暴力の共通点を明らかにする」を国際テーマとします。

CWGL はこのテーマに今後数年にわたって取り組む予定です。私たちは 2010 年のキャンペーンの発足に期待を寄せており、この機会に個人や集団における軍事主義の経験に関する情報を集めて、将来のキャンペーンに活かしたいと考えています。CWGL は、軍事主義と暴力の連鎖に対するフェミニズム視点からの批判を世界的な規模でまとめながら行動していくために尽力します。どうぞこのキャンペーンに参加してください。

なお、このキャンペーンのテーマは、バックラッシュを経験した多くの活動家にとって容易に提唱できるものでないと思います。CWGL は、活動家がまず自分の身を守ることが大切だと考えます。新たに参加する活動家や、ジェンダーに起因する暴力や人権に関する一般的な問題への取り組みのほうに関心があるという方、あるいは軍事主義について公然と闘うことができないという方に対しても、CWGL は情報提供を続けます。

アメリカ ニュージャージー州  
ラトガーズ大学  
女性たちのグローバル・リーダーシップ・センター  
ジェンダー暴力と闘う 16 日間キャンペーン

例えば、このキャンペーンは以下のような課題に取り組みます。

- ・「真の安全」とジェンダー正義に関する議論
- ・女性たちが戦争によって受ける経済的影響
- ・和平交渉、平和構築、外交や決定権を握る場における女性の役割
- ・小型武器の激増と DV で使われる武器
- ・賠償、癒しと和解
- ・世界的な武器の製造と販売
- ・兵員による DV
- ・紛争下の性暴力と性奴隷
- ・紛争下における性と生殖の権利の抑圧
- ・軍内部での性暴力
- ・兵員が犯した女性に対する暴力の不処罰
- ・難民や国内避難民となった女性や少女の脆弱性
- ・女性や少女の戦闘員
- ・平和維持軍による暴行
- ・基地周辺で暮らし、働く女性たちに対する暴力や虐待
- ・民主化運動の抑圧を目的とした文民に対する政府の武力統制
- ・「非常事態」下における法や人権の停止
- ・女性の人権活動家を抑圧するために「反テロ」法を適用すること
- ・民族・宗教間でおきる暴力や暴動
- ・軍事主義と保守的な宗教勢力の関係
- ・軍事行動による環境汚染と、女性や子どもたちへのその影響
- ・政府による軍事支出と社会福祉分野への支出分析
- ・武装警察と学校や公共施設など社会的組織の関係
- ・あなたのアイデアをぜひ寄せてください！

#### 16 日間キャンペーンのための情報源

女性のグローバル・リーダーシップ・センター (CWGL) は、キャンペーンの情報や資料を準備中です。テーマの背景を知るために、またみなさんのキャンペーン活動のヒントとして活用していただけるようにします。CWGL はキャンペーンまでの間、ホームページ上でこれらの資料を公開します。印刷物をご希望の方は、キャンペーンのコーディネーター宛 ([16days@cwgl.rutgers.edu](mailto:16days@cwgl.rutgers.edu)) にご連絡ください。女性に対する暴力に関する様々なテーマの情報や資料も、その他のトピックに関心をもつ参加者のためにキャンペーンのホームページ上で通常どおり読んでいただけます。

#### 16 日間キャンペーンに参加しよう！

グループや大学、また全国的、国際的な場での活動に参加するか、もしくは新たな活動を自分で創り出しましょう！ キャンペーンに関する情報は、メーリングリストで配信します。下記のホームページから登録してください。 [https://email.rutgers.edu/mailman/subscribe/16days\\_discussion](https://email.rutgers.edu/mailman/subscribe/16days_discussion)

ホームページに掲載されている過去の 16 日間キャンペーンで行われた世界中の活動を、あなたの活動のヒントにしたり、あなたの地域のグループを見つけるために活用してください。10 月末までに、CWGL にあなたの計画を忘れずにお知らせください。グローバルなキャンペーンの一部として、2010 年度の世界各地の活動予定のページに掲載します。

#### ホームページをご覧ください！

16 日間キャンペーンに関するより詳しい情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://www.cwgl.rutgers.edu/16days/home.html>

過去のキャンペーンの写真は下記のサイトからご覧いただけます。

<http://www.flickr.com/photos/18578511@N04>

#### フェイスブックで私たちの活動を探してください！

フェイスブックで、「The Official 16 Days of Activism Against Gender Violence Campaign」を検索し、私たちの掲示板の常連になってください。世界中で取り組まれている活動の最新情報、写真や映像、興味深い事例も公開します。あなたの考えやアイデアを共有するのもお忘れなく！

翻訳：田中雅子、協力：松本真紀子、磯貝明澄      ©アジア女性資料センター      [ajwrc@ajwrc.org](mailto:ajwrc@ajwrc.org)